

(株) バリオン 研修会テーマ

研修会概要

1. 基本、Zoom での講義となりますが、それ以外のツールを使った web 研修にも対応します。
2. 集合研修が可能となりましたら、出張講義にも対応いたします。ご相談ください。
3. Zoom での講義時間は基本「60 分」ですが、「40～90 分」で調整可能です。
4. 研修料金につきましては、随意、ご相談ください。
5. 「お問い合わせ」より、お気軽にご要望、ご質問ください。

テーマ一覧

◆介護施設および介護サービス者全般向け

(今後の高齢者施設の必須知識&技術) ※新テーマ

1. 介護保険制度における「身体拘束」を考える

30 年前の病院勤務の頃、普通にベッドや車いすに縛られたり、「〇〇さん、立たないで！」などの大声で怒鳴られたり、薬剤を過剰に服用させられて意識が朦朧としてベッドの上に横たわっている人たちが、普通に見られました。現在も精神科病床を中心に、まだまだ身体拘束が見られます。

2018 年、介護保険では、身体拘束に関する罰則などを厳しくしました。しかし、身体拘束の判断基準があいまいで、それぞれの施設や保険者（監査）によって、身体拘束の対象となるのか否かの判断がバラバラな状況です。この講義では、身体拘束とは何なのか、現在の日本の精神医療の現状も踏まえて、説明します。また、「身体拘束」なのか「見守り」なのかで判断が分かれるものの、介護職不足を補い、厚労省も期待を寄せる福祉用具「各種センサー」について講義します。

(今後の介護職の必須知識&技術)

2. LIFE の理解に欠かせない！ 介護職のためのバーセルインデックスと DBD13、Vitality Index の基本

第 8 期介護保険事業計画における目玉の加算の一つは「科学的介護推進体制加算」です。これは施設を中心とした介護サービスをデータとして蓄積して、将来、介護サービスの質向上に活かそうとするものです。いわゆるこれが「LIFE」の目的です。これに採用された 3 つの質問票があります。「バーセルインデックス」と「DBD13」、「Vitality Index」と言う質問票です。これらは今後、介護に関係する人たちにとって、知っていて当たり前の知識と評価技術になります。まずは、その基本を学びましょう。

(介護訴訟に備える知識)

3. 病気とその障害別！ 介護職が介助時にやってはいけないこと

もう一度、病気とその障害をやさしく学び、しかしそれぞれの病気や障害を持っている人に「やってはいけない介助」について身につけます。清拭時の手足の動かし方や転倒の予防などのコツについて学びます。

現在、施設における介護訴訟が頻発しています。デイサービスでの転倒・骨折事故では「3,300 万円（仙台地裁）」や、ショートステイでのベッドからの転落死亡事故では「3,400 万円（京都

地裁)」など、賠償金も高額化しています。

これらの事故は、病気や障害に関する知識や技術で、極力避けることが可能です。まずは、介護施設に多い「脳卒中」「認知症」「パーキンソン病」「廃用症候群」について「4回シリーズ」をお勧めします。

(必須！身につけるべきテーマ)

4. 知れば介護サービスが変わる！ 最新の「認知症」について学ぶ

これから3年ほどで、日本は「認知症+認知障害(MCI)」が「1,200万人」に達すると予想されています。つまり、今後は、福祉用サービスを利用する利用者が、激増することでしょう。この「認知症」に対する福祉用具専門相談員としての知識や接遇などの技術が、営業成績を大きく左右するようになります。

現状でも介護保険の利用者が最も多い「認知症」、これまでの基本から、最新の知見である「アルツハイマー型認知症の発生原因」と考えられていることまでを学びます。この講義で、ご利用者やそのご家族が欲している、認知症に関する「情報提供」も可能になります。

さらに、利用者が飲んでいる薬剤の簡単な知識と、薬剤を補いつつある「サプリメント」についての知識も、利用者やケアマネからの「信頼」につながります。

(必須！身につけるべきテーマ)

5. 認知症者と仲良くなる！ 認知症者とのコミュニケーション方法

これからの福祉用具サービスでは、どんどん増える「認知症者」を避けては通られません。しかし、多くの福祉用具専門相談員を含めて、ほとんど人は、認知症者から「敵」と見なされるような言動をしています。家族も同様です。敵と見なされたとたんに、当然、指示などには従ってくれません。

ここでは、認知症者の敵にならないで、逆に有効な関係を構築するために有効な、世界で用いられている、知ってさえいれば誰でもできる「コミュニケーション・テクニック」を紹介します。これらテクニックの概要を知っているだけで、営業時に、認知症者との関係が短時間で改善されます。

(新人または初心に帰る人用テーマ)

6. 知れば介護サービスが変わる！ 高齢者が罹患しやすい病気の基本と介護の注意点 その1

脳卒中やパーキンソン病について、その基本や福祉用具で解決できる症状などについて学びます。加えて、老衰（病気ではないですが）を含んだ廃用症候群について学ぶとともに、今後在宅での看取りが多くなる（特殊寝台の超短期レンタルが増加する！？）ことを受けて、「終末期」を通じた「死」について学びます。人間は、死亡率100%！

(新人または初心に帰る人用テーマ)

7. 知れば介護サービスが変わる！ 高齢者が罹患しやすい病気の基本と介護の注意点 その2

関節リウマチやオリーブ橋小脳変性症、ALSについて、その基本や福祉用具で解決できる症状などについて学びます。オリーブ橋小脳変性症とALSは少ないですが、その対応が特殊ですので、担当するときのために、基本的な知識を持っておいた方が良いでしょう。

(ケアマネとのコミュニケーションネタ用テーマ)

8. 貸与だけではない！ 介護保険で広がった福祉用具ビジネスを知る

最近の介護保険事業計画では、一見、福祉用具給付などに大きな変更はなかったのですが、実はこれまでに無いぐらい福祉用具の活用が広がり、ビジネスチャンスとなっています。福祉用具専門相談員の活躍が期待されています。ケアマネさんにも、福祉用具専門相談員が必須な「加算」が設けられました。これはデイサービスやデイケアにおいても同じです。

この研修では、福祉用具専門相談員や福祉用具に関わる者として、厚労省からの期待の背景を知り、福祉用具と福祉用具専門相談員の今後の仕事に活かすための知識を学びます。

(必須！身につけるべきテーマ)

9. 福祉用具専門相談員が持つべき情報収集の新たな視点

今、介護保険では、デイサービスや特養をはじめ多くのサービスで「バーセル・インデックス」でADLを測定しています。加えて、今、話題の「LIFE」もその中心部分が「バーセル・インデックス」です。

これらのこと以上に、福祉用具専門相談員としても、利用者さんの身体状況を正確に、しかも短時間で把握することは重要です。バーセルインデックスによって、これまでに無い視点での情報収集が出来るので、サービス計画作成や福祉用具選定にも役立ちます。

ほんの10分程度でできる「バーセル・インデックス」は、貴社の福祉用具によるサービスの有効性を「数値」でアピールすることもできます。業界的にはこの「数値が」、「署名運動」の100倍有効な、国に福祉用具の重要性を示すための方策となるでしょう。

(必須！身につけるべきテーマ)

(新人または初心に帰る人用テーマ) ※新テーマ

10. 人間が使うんだから避けられない！「福祉用具事故」を知って事故を防止する

福祉用具を含む「介護サービスに関わる事故」が増え続けています。それは、介護職不足や認知症の増加に起因していることが考えられ、今後、増え続けるでしょう。また、それらに関する「訴訟」の増えており、3,000万円を超える高額な賠償金を支払う事例も出てきています。

中でも、福祉用具事故は、サービスを提供している間中、サービス者（貸与事業者）が関わることができないサービスであり、利用者やその介護者による「ヒューマンエラー」が絡みやすく、それ分事故も多いサービスです。できるかがり福祉用具事故を少なくし、事故が起きたときにはそれに備えるための基礎知識を学びます。

(新人または初心に帰る人用テーマ)

11. 今一度、基本に戻ろう！ いまさら聞けない介護保険での福祉用具

国は、介護職不足対策の一環として、「介護の生産性向上」に大きく舵を切りました。生産性を向上させると言うことは、これまで「3人」でやっていたサービスを、介護ロボットやICT機器も含めた「福祉用具」を使って、「2人」で出来るようにする言うことです。

今ここで、「福祉用具とは何なのか？」「介護保険における位置づけは？」など、福祉用具の基本や歴史、現状を再確認し、そこから見えて来る、福祉用具の未来について学びます。

また、介護サービスに求められている「生産性」をについて学ぶとともに、介護現場における生産性を高めるためには、介護ロボットやICT機器も含めた「福祉用具」が欠かせない、

すなわち「福祉用具専門相談員」が主役となる時代が来ている!とすることを確認します。

(新人または初心に帰る人用テーマ)

12. 住宅改修の基本と福祉用具専門相談員の役割

福祉用具と住宅改修は、常にリンクし、切っても切り離せない、重要なサービスです。住環境を整える時の基本は、まずは福祉用具で出来る限りのニーズの解決を行い、そこで導入された福祉用具が最高のパフォーマンスを出せるように、住宅改修を行うということです。住宅改修の基本を学ぶことで、福祉用具選定の幅が広がります。

(新人または初心に帰る人用テーマ)

13. 地域包括ケアシステムの中での多職種連携による福祉用具と住宅改修

福祉用具と住宅改修は、地域包括ケアシステムの「第一手」です。他のどのサービスよりも先に、まずは「福祉用具と住宅改修」で、利用者さんに最高の自立状態になっていただき、その上で人の手によるサービスを、適時・適切・適量、提供することが重要です。福祉用具と住宅改修に関わるいろいろな職種の特徴を知り、今後の連携に役立させましょう。

(新人または初心に帰る人用テーマ)

14. ケアマネに信頼される福祉用具専門相談員がやっているたった「5つのこと」

福祉用具専門相談員として営業は、常に「2人のお客様がいる」という特殊なものです。「利用者さん(その家族)」と「ケアマネジャー」です。

この研修では、居宅事業者にケアマネジャー訪ね、信頼されるとともに、良い関係を保つために必要なことを学びます。キーワードは「脱!御用聞き」。

介護保険が始まって20年以上かけて、多くの福祉用具専門相談員から集めた、特に「新人」にとっては貴重な「現場情報」でもあります。

(ベテランが新人にノウハウ伝道用テーマ: 演習中心)

15. 選定のための情報収集とアセスメント、ニーズ抽出、選定根拠を演習する!

福祉用具専門相談員として独自に情報集めたことを、分析し(アセスメント)、問題点(ニーズ)を抽出して、根拠のある選定をするまでを演習します。

まずは講義にて基本項目を学び、机上で演習し、初心者からベテランまでが3~4人でのグループ演習までを行うことで、貴社の宝物であるベテランの考えやノウハウを、若手にどんどん伝えることも目的です。特に、ADLを把握から福祉用具選定をすることの流れを重要視した演習となります。

(新人または初心に帰る人用テーマ)

16. ケアマネへのサービスとして「理由書」作成と、サービス計画の書き方のコツ

福祉用具専門相談員に、住宅改修「計画書」の代行を依頼してくるケアマネがいますが、今後のことを考えると、断りづらいものです。ここでは、ケアマネに信頼される(恩を売る)ことを意識した「理由書」作成のコツと、作成後必ずやっておくことを学びます。

また、サービス計画書をより短時間で作成すること(=コストの削減)を目的とした、サービス計画書の作成のコツを学びます。

(次世代の知識用テーマ)

17. 福祉用具貸与になるのか!? これからの介護に欠かせない「介護ロボット」の基礎知識

厚労省は第8期介護保険事業計画で、「介護サービスの生産性向上」も向けて、大きく舵を取りました。今後の介護職不足を補う対策の一つとして、介護サービスにおける「生産性の向上」は非常に重要です。介護サービスにおける「生産性向上」とは、福祉用具や介護ロボットを駆使して、これまで3人で行ってきた介護サービスを、2人でできるようになると言うことが、その1つです。

この講義では、将来、介護保険での給付となるかも知れない「介護ロボット」の基礎知識と、介護現場での介護ロボットの利用について学びます。

(次世代の知識用テーマ)

18. 福祉用具専門相談員の素養！ 介護サービスに入り始めた「人工知能 (AI)」の基本を学ぶ

ケアプラン作成や転倒予測など、介護の世界ではいよいよ人工知能 (AI) が活用し始められました。将来的には、福祉用具サービス計画や福祉用具選定の補助を、AI がやると言う時代も来るかもしれません。

この講義では、福祉用具専門相談員が持つべき、過去のAI、今のAI、未来のAIについての基本を学びます。

(次世代の知識用テーマ)

19. 人材不足を対策としての福祉用具貸与事業における「生産性向上」の重要性

福祉用具貸与事業においても、これまでより少ない人員で、これまでよりも短時間で、これまでよりも質の高いサービスを行うと言う意味で、「生産性向上」は重要事項です。

これを真の意味で具体化するためには、これまでメーカーが作ってきた福祉用具に対して、貸与事業の生産性を向上させる視点で、福祉用具を作ってもらおうと言うことが必要です。

この講義では、福祉用具サービスの生産性を向上させる意義とその方法について、提案します。他の貸与事業者と差をつける1つの方策として、セミ・プライベートブランドの重要性についても、講義します。

(今が旬の必須知識テーマ)

20. コロナ禍において福祉用具専門相談員が、益々の信用を得るために行うべきこと

コロナ禍において、福祉用具サービスは、訪問系のサービスの中で比較すると、かなりその強みを発揮しました。面談や搬入などのやり方を工夫し、それらにかかる時間を最小限にすることで、利用者との接触時間も最小限にすることができるからです。訪問介護などの他の訪問系サービスでは、中々このようにはできません。

そこで、さらに新型コロナウイルスに関する知識やその対応方法を学ぶことで、利用者やその家族、ケアマネへの感染などのリスクを減らすことができます。その逆もしかりです。これから共に生きていかなければならないであろう「新型コロナウイルス」の正しい知識と、サービス時の対応方法について講義します。

